

コロナに負けない、絆の力! 園児・保護者・幼稚園をつなぐ愛のリレー 「ラブレター大作戦」

亀岡市立幼稚園では、コロナの影響で5月末まで臨時休園となる中、園児や保護者とのコミュニケーションとして封書のやり取りを行う「ラブレター大作戦」を実施されました。これは、先生から園児一人ひとりへのお便りとともに、家でできる遊びを紹介するプリントや塗り絵、まちがい探しなど、遊びながら学べる教材を郵送。ここに同園独自の取り組みとして返信用封筒を同封することで、双方向の交流を図るものです。

送付後、先生たちもワクワクしながらポストをのぞいてみると、想像以上のラブレターが返ってきており、「ようちえんにいけるのをたのしみになっているよ」といったメッセージのほか、折り紙や先生の似顔絵など心温まるプレゼントも添えられていました。

この「ラブレター」についてPTA会長の大槻佐代子さんに伺うと「園からの手紙に息子はとても喜んでいました。保護者としても、先生から送っていただいたアイデアをもとに家でできる新しい遊びを考えたりと活用していました。返事を出す際も、子どもと一緒に何を入れようかと話し合いながら、楽しい時間を過ごすことができました」と話されました。

大槻さんをはじめ保護者の皆さんも積極的に返事をくだり、休園中の子どもたちの様子を収めた写真や成長日誌などが届けられました。

中井佐栄子園長は、「家庭で過ごす園児に笑顔をお届けたい、心はつ



後日、届いたラブレターを見る園児と保護者

ながっていることを伝えたいという願いから『愛とアイデア』を封筒に詰めました。郵便という方法をとること、社会の仕組みに触れるとともに自分あてに封書が届く喜びや、相手を思っていることを伝えること、返信する体験を通して欲しいと考えました。届いたラブレターからは先生への



蘇州市から届いた励ましのメッセージが添えられた2万枚のマスク

助け合いで深まる友好の絆 「マスクがつなぐ国際交流の輪」

今年、ブラジルのジャネーラ市と姉妹都市盟約を締結し35周年を迎えます。その節目を記念して、6月下旬から7月上旬にかけて亀岡市から市民訪問団を派遣し、現地で文化交流をはかる予定でした。しかし、世界的に新型コロナウイルス感染症が拡大し深刻な社会的影響が発生しており、感染の拡大を防止する観点から中止となりました。

そこで今回、ジャンダーラ市を支援するために、姉妹都市サポートプロジェクトとして市民の皆さんから現地に送る手作りの布マスクを募集

今年2月には、友好交流都市である中国の蘇州市から物資の支援要請があり、マスク2万枚を送付。その後、今度は6月に蘇州市から、感染予防に役立てばと、段ボール箱に「亀岡、頑張れ!」とメッセージが添えられた2万枚のマスクを寄贈いただきました。いただいたマスクは、市内の高齢者を中心に配布する予定です。

蘇州市には昨年8月、教育交流プログラムで市内中学生が現地を訪問。今年度は蘇州の中学生を受け入れる予定でしたが、やむを得ず中止となりました。しかし、厳しい状況であっても相互に支えあう、友好の絆をあらためて確認したところです。

今後コロナ禍の事態の収束に向けて思いを一つにし、一刻も早い姉妹都市・友好都市との交流再開を願っています。

【典拠】天正5(1577)年7月4日付西蔵坊・小島永明・長沢又五郎宛明智光秀書状



寄せられた力作の数々



みんなのラブレターは教室に展示しています

第四百十二回 明智光秀 文化財めぐり 15

明智光秀と保津川水運

亀岡市を代表する観光資源である保津川水運。近代になってトラック輸送に代替されるまで、京都までの材木輸送における重要な役割を担っていました。



▲光秀も重視した保津川水運

保津から嵐山に至る筏流しは、織田信長が上杉謙信へ贈った「上杉本洛中洛外図屏風」にも描かれ、戦国時代にも京の風物詩だったことがうかがえます。

では、明智光秀は保津川水運とどのような関わりがあるのでしょうか。注目されるのが天正5(1577)年7月4日に、光秀が小島氏ら家臣に対して、材木を「河原尻より保津川端」まで届けるよう命じた書状です。光秀が私たちが同じように「保津川」と呼んでいることにまず親近感を覚えますが、ここから光秀が保津川水運を利用していたことが明らかになります。

材木の運び先はどこでしょうか。この時期亀山城が築城の真っ最中であり、宛先の家臣が城普請に関わるメンバーであることから、水運によって亀山へ運ばれた可能性が高いと思われるのです。